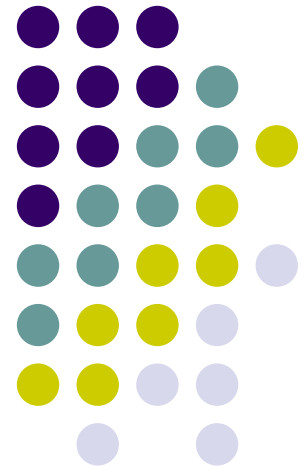
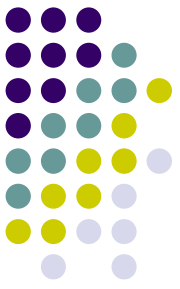


2008年度企業論 第4回小テスト

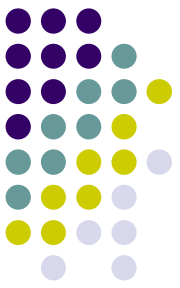
2009年1月19日実施





小テストの実施方法について

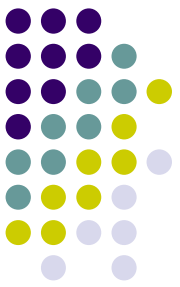
- 実施日
 - 予告しない。
 - 実施した場合には、その事実をメーリングリストに配信し、続いて掲示する。
- 方式は〇×式とする。
- 持ち込み不可とする。
- 出題範囲
 - 実施時点まで行った授業の範囲とする。2回目以後の小テストも同様であり、前回の小テスト以後の授業の範囲には限定されないので注意。
- 配点について
 - 1回5点。2問出題。1問正解＝3点。2問正解＝5点。
- 欠席について
 - やむを得ず欠席した者は、試験日の7暦日後(休日も1日と計算)までに、欠席理由を証明する書類を添えて川端まで申し出ること。川端が研究室に不在の場合は留守電か電子メールでまず連絡を取ること。何も連絡がない場合は本人の責任として申し出を認めない。
 - 『学生便覧』の「専門教育科目の履修上の注意」記載の追試験該当事由と同等の理由であると教員が判断した場合は、当該小テスト受験者全員の平均点を与える。
 - 就職内定先からの呼び出し、就職関係セミナーについては、当該小テスト受験者全員の平均点と3点のうち、低い方を与える。これらについても、当該企業等が発行した証明書類を提出することが条件である。当該企業等の担当者の署名・押印があればよい。本人作成の書類のみでは認めない。



第1問

- 本講義によれば、バーリとミーンズは『近代株式会社と私有財産』において、アメリカ企業が経営者支配の方向に向かっていること、経営者支配が確立すると、経営者は株主ではなく自分自身の利益を追求するようになることを主張した。正しいと思ったら○、違うと思ったら×を記入せよ。

正解 = ○



第2問

- 本講義によれば、1960年代後半以後に進んだ日本の株式の持ち合いにおいては、株主となった金融機関・事業法人は、株式を支配証券としてではなく利潤証券として保有し、配当によって利潤の分配を得ることを最大の目標としていた。正しいと思ったら○、違うと思ったら×を記入せよ。正解 = × (持ち合いにおいては、株式は支配証券として保有されていた)